派遣先所属　福島県企画調整部エネルギー課　　氏名　深山　祐一
派遣期間　　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

１　背景

福島県は先の東日本大震災により様々な被害を受けました。特に、原発事故による被害は甚大で、震災から 3 年近く経とうとしている現在でも、未だ多くの被災者が自宅に戻れない状況が続いています。また、風評被害も深刻で、福島県のあらゆる産業にダメージを与えています。

そのような悲しい事態を招き起こした原発事故を受けて、福島県では県内における脱原発を目指し、新たなエネルギーとして、太陽光発電をはじめとする「再生可能エネルギー」の導入を進めております。

２　派遣先の状況・業務内容

派遣先であるエネルギー課再生可能エネルギー担当では、主に先述の再生可能エネルギー導入推進業務を行っております。

当担当では、埼玉県から 2 名の職員が派遣されているほか、民間企業からも 1 名応援に来ていただいており、様々な立場の職員から多くのことを学び取ることができる職場です。

一口に再生可能エネルギーと言っても様々な種類があります。皆様にとって一番身近な太陽光発電を始め、風力発電、水力発電、地熱発電、そして生物のエネルギー（植物の油等）を利用したバイオマス発電も再生可能エネルギーです。

その中で私は、①県有施設や県有地への太陽光発電の導入業務、②地熱発電に関する調整業務、に携わっております。

特に、福島県の復興事業の目玉の一つとして今年度から建設を進めている復興公営住宅への太陽光発電設備の導入が大きな業務です。復興公営住宅はまさに復興のシンボルともいえる施設であり、そのような施設に、太陽光発電という未来を感じさせる設備を導入することは、県民、特に被災者の皆様や子ども達に夢と希望を与える非常に意義の高い業務だと考えております。

３　福島でのイベントについて

福島県では様々な楽しいイベントが開催されております。なかでも 9 月に開催された「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白川」は全国のゆるキャラ達が一堂に会するという人気イベントで、その名のとおり多くの子ども達に夢を与えました。

当課は、このイベントで再生可能エネルギーの展示・体験ブースを出展し、私もイベント当日の業務に関わらせていただきました。嬉しかったのが、多くの子ども達がブースに立ち寄って、太陽光発電カー（太陽光発電で動くおもちゃの車）等で興味津々に遊んで行ってくれたことです。やはり、再生可能エネルギーは子ども達に夢を与えるのだと実感しました。

埼玉県と繋がりが大きいイベントとしては、10 月に「ふたばワールド 2013」が 14 年ぶりに開催され、埼玉県からも大勢の方に御来場いただきました。伝統工芸の体験や「すいとん復活プロジェクト」、そして「ふたば伝承隊」によるパフォーマンスなど、楽しいイベントで大変盛り上がりました。

そのほか、福島県内では「六魂祭」や「わらじ祭り」など数多くの楽しいイベントが開催されております。

４　被災地域の状況

出張で浜通り地区に行く機会が何度かあり、その際、被災地域の状況を目の当たりにしました。津波の被害にあった住宅の跡や耕作放棄地など、3 年近く経った今も震災の傷跡を残しております。

また、原発周辺地域では、未だに多くの住民の方々が自宅に戻れず、避難を強いられている状況です。

耕作放棄地については、メガソーラー等、他の使い道としての可能性も秘めておりますが、除染や農地転用の問題等大きな課題もあります。

５　最後に

被災地復興のキーワードは、「夢」と「希望」に尽きるのだと思います。県は市町村、事業者そして何よりも県民の皆様の大きな協力を得ながら、その「夢」や「希望」を生み出すお手伝いをする、そんな役割が期待されているのだと思います。私は先述のイベントで子ども達の笑顔に触れて、それを実感しました。

そうした期待に応えるべく、これからも引き続き、福島県での業務に精一杯取り組んでいきます。

派遣先所属　　福島県企画調整部エネルギー課　　氏名　吉成　走(よしなり　そう)
派遣期間　　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

1　派遣業務の内容、現況

派遣先のエネルギー課では主に再生可能エネルギーの導入推進に関する業務を行っています。これは原子力発電に依存しない社会の実現のため、おもに太陽光、風力、水力、地熱などの自然のエネルギーを活用した発電を推進するものです。福島県では、2040 年までに、県内で使用する電力の 100%相当を再生可能エネルギーにより発電することを目標にしています。

担当業務は水力発電、バイオマス発電、環境エネルギー教育などです。具体的には水力発電などの導入に関する相談や補助金の交付、再生可能エネルギーの体験学習施設の整備などを行っています。

水車小屋を活用した水力発電
（福島市：四季の里）

再生可能エネルギーは、震災や原子力発電所の事故を受け、近年になってニーズが急速に高まっている分野であり、とくに水力発電などについては担い手のノウハウが培われていないことが多いため、事業の進め方をアドバイスしたり、費用の一部を助成する必要があります。

福島空港（須賀川市）

子どもたちが“見て、触れて”再生可能エネルギーを学ぶための取組として、福島空港に発電の体験ができる模型を設置したり、発電所などをめぐるツアーの実施を計画しています。

私の所属する職場では、再生可能エネルギーの導入推進が県の重点施策ということもあり、日々あわただしい雰囲気のなか、職員どうし一丸となって課題解決に取り組んでいます。

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

私の業務は直接被災者の方々と接するものではありませんが、休日には同僚とともに相馬やいわき地方の沿岸部で海釣りを楽しんでいます。

釣り糸を垂れていると、試験操業が始まったばかりの地元漁師さんや、津波で家が流された方、遠方に避難していて一時的に帰省された方などが話しかけてきてくれます。

お話しすると、「○○（魚の種類）は放射線量が高いが、△△は低いので我々も食べている」とか、「避難所生活で体調を崩して仕事を辞めざるを得なくなったが、震災との因果関係が認められず、補償がなかった」など、被災地のなまなましい現状を直接聞き、震災の爪あとの深さを実感しています。